

1. 2015年度報告

2015年度は下記9項目の学校目標を設定して教育内容・環境の充実を図った。

<学校目標>

- ①日常教育活動全般の充実と改善
- ②高校新教育課程完成年度の適切な実施
- ③Waseda Vision 150 大学全体で改革を進める本部・各学院との連携
- ④Waseda Vision 150 学院構想の具体化
- ⑤中学部・高校の協力関係の深化
- ⑥SSH、SGH 校としての十分な活動と外部への情報発信
- ⑦3つの視点の意識化
 - 国内外の学校と学院との比較
 - 早稲田大学内の学院への期待と位置づけ
 - 学院の教育内容・方法の改善
- ⑧2期工事後のキャンパスの運用と今後の展望検討
- ⑨ソフト・ハード面での災害への備え

<重点項目>

○グローバルリーダーの育成を目指したプログラムの開発と実施

SGHのプログラムは、教育課程内の授業時における活動と同時に、国内外のフィールドワークが新たなものも加えて、開始された。「多文化共生空間の創造・維持・発展」を課題として、さまざまな角度からのアプローチを試み、その成果をSGH発表会、学芸発表会などを通して多くの人々の還元できるようにした。オンデマンドコースのコースナビ上でのコンテンツ配信を開始し、生徒の学習活動、体験活動に活かした。

○新教育課程と教育内容の向上

2015年度に新教育課程の完成年度を迎えて、英語・数学の授業時間数増、数Ⅲ、理科4科の必修化、TOEFL/TOEIC受験の必修化を実現した。

○学校のオープン化推進

大学、地域、OB等との協力により、生徒の体験を多様化・深化させ、学習活動、今後の生活への動機付けを高めていくことができた。

○情報発信の強化

受験生だけでなく学外者に対して、幅広く様々な媒体を通しての情報発信を強化していく。HPの使い勝手をよくするだけでなく、日本語・英語以外に、独・仏・露・中でもアクセスできるようにした。

○2期工事後のキャンパスの運用と今後の展望検討

第2期工事の竣工と共に、現行キャンパスのより効果的な運用を図りつつ、教育環境整備・防災・減災の観点から今後の方向性を検討した。

2. 2016年度計画

2016年度は下記を学校目標として、学院教育の質の向上を目指す。

<学校目標>

- ①Waseda Vision 150 に基づく計画の具体化
- ②SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定に伴う構想の着実な実践
- ③日常教育活動全般の充実と改善
- ④中学部と高校の円滑な接続
- ⑤Waseda Vision 150 で改革を進める各学術院との連携強化と教育内容の接続
- ⑥より開かれた学校へ向けての施策
- ⑦キャンパス整備：施設の適切な運用と第3期工事以降の展望
- ⑧災害への備え、生徒教職員の安全確保

<重点項目>

○グローバルリーダー育成プログラムの深化と加速化

2016年度学校目標をふまえ、学校のグローバル化、オープン化をより加速する。具体的にはSGH校として授業内容、課外研究課題の取組などを充実させるとともに、海外協定交流校の増大を図る。ドイツや中国の高校をはじめ、北半球の英語圏の学校との交流を検討していく。

従前の留学制度に加え、留学を含む3年間卒業を可能とする制度が2017年度から運用できることとなった。本年度は生徒・保護者等への周知を含め、円滑に実施されるよう努める。

○学部教育との効果的な接続

2015年度に新教育課程が全学年に適用され、学部進学者後の学修に変化も予想される。より個々人に相応しい進学、円滑な学部への接続、また、進学後の留学を含む諸活動を積極的に支援していくことができるように、学部との協力体制を強化していく。たとえば、留学の時期、導入教育の履修内容・時期だけでなく、入学時期(飛び級や9月入学)まで含めた検討の可能性を探る。

○生徒の特性を活かした活動の推進

部活動、生徒会活動、プロジェクト活動のようなグループ活動だけでなく、文部科学省の「トビタテ！留学 JAPAN」への積極的応募などを含め、一人ひとりの特性が最大限活かせる活動に参加できるよう支援していく。

○キャンパス利用の効率化と整備

臨時に利用していたグラウンドが使用中止となり、大学記念会堂の建替えが始まった。大学生の高等学院施設利用が増加しつつあるが、全体を通じてより適切にキャンパス利用をしていくため、全学的な観点から、関係者と協議し、より効率的な施設利用を図る。また、教育環境の充実のみならず防災・減災の観点からも今後第3期工事を展望していく。

以上